会　　議　　録

会議の名称	令和２年度　第２回小川町地域公共交通活性化協議会			
開催日時	令和２年１２月２３日（水） 開会時刻　午前１０時００分　　閉会時刻　午前１１時００分			
開催場所	リリックおがわ　会議室１・２			
出席者	役職名	氏名	役職名	氏名
	会長	尾崎　晴男	委員	神宮　一雄
	副会長	中村　　寛	委員	山口　勝士
	委員	矢島　富男	委員	荒井　基明
	委員	小川　ゆかり	委員	松岡　良治
	委員	伊藤　太佳博	委員	海野　四郎
	委員	宮原　誠二	委員	小川　新一
	委員	大山　　博	委員	安野　育男
	委員	小熊　和久		
	委員	堀米　康史		
	委員	田端　健二		
会議の議題	（１）現行計画の検証と見直しの必要性について （２）見直しの方向性、小川町地域公共交通計画（素案）について			
会議の公開又は非公開の別	公開			
会議の非公開の理由	－			
傍聴人の数	３名（事前公募制）			
発言の内容	別紙「発言の要旨」のとおり			
会議資料	別紙のとおり			
事務局	都市政策課 都市政策担当			
議事の確定	確定年月日	令和２年１２月２８日		
	記名 押印	役職名 会長　　尾崎　晴男　　㊞		

発言者	発言の要旨
事務局	**（１）現行計画の検証と見直しの必要性について** **（２）見直しの方向性、小川町地域公共交通計画（素案）について　説明**
山口委員	分科会の中でも議論させていただいたが、いくつか重要なポイントがあると思い、改めて確認したい。まず、平成 28 年の地域公共交通網形成計画の中では、公共的な移動サービスの望ましい方向性の検討をする内容であったが、国の施策の変更等もあった関係で、地域主体での新しい移動サービスの検討という方向に変わった。住民の皆さんも、新聞やニュース等を見た際に、こうしたニュースが多く流れているので多く目にしているものであるが、公共的な移動サービスの望ましい方向という記載ではなく、地域主体での新しい移動サービスの導入の可能性を検討していくという形に、ある意味大きく変わった。公共的な移動サービスという言葉が抜けた意味、そして今後この小川町でどういったものの導入の可能性があるのか。今後分科会では、この計画に基づいて地域主体の新しい移動サービスの導入可能性について検討しなければならないため、もう少し詳しく確認しておきたい。 それから２点目が、バス路線の維持充実についてである。この点は、本日もいらっしゃっているバス事業者さんたちが、バスの維持が厳しく難しい状況にあるというのは確認されている。そのような中で、今後も大きな課題があるわけだが、実施概要のイメージのところに「利用者数等の路線ごとに異なる周辺状況を踏まえてそれぞれに適した、維持充実方策を検討します」とある。今後それぞれの路線に適した維持充実方策ということで、バス路線やバス会社ごとに内容・方策等を変えて検討していくということになるのか。 ３点目は、目標値の言葉の中で、なんとか現状維持を図りたいという大きな意味の上で、現状維持としたという説明をいただいた。残念ながら平成 28 年の現況値に対して、今回の現況値は、パークヒル路線以外はすべて大幅な減少になっている。これは、社会情勢や高齢化等の影響も重なり、公共交通だけの問題ではないため、単純に数字が減ったので「なぜ現状維持なのか」という論点にはならないと私は思っている。ただし、かなり減少している中で「なるべくマイナス要素を減らしたい」という意味からも現状維持になっていると私は理解したが、もう一度目標値の「現状維持」という設定に関して詳しく確認しておきたい。
事務局	まず１点目の地域主体の新しい移動サービスの導入可能性の検討だが、計画策定時点では、既にあった「パトリアおがわ一般送迎」や「いきいきタクシー券」の支給事業等の再編・統合を検討すると掲げていた。デマンドタクシーが平成 30 年 4 月から本格運行を開始したことにより、公共的な移動サービスの検討がひとまず完了したと、事業を評価している。そのような中で、2020 年に地域公共交通の活性化再

発言者	発言の要旨
	生法が一部改正されたことに伴い､デマンドタクシーを補完するような意味合いで、また地域主体での新しい移動サービスの検討の可能性として位置付けている。こちらについては、まだ埼玉県内でも事例が少ないことから、引き続き勉強や検討が必要であり、また導入条件となる運行主体になりえる組織の確立や、地域の意向等も関係してくるため、これらを総合的に勘案しながら導入可能性を検討することになる。具体的な進め方については、この協議会でも承認を受けなくてはならないため、次年度以降検討を進めることを考えている。イメージとしては、デマンドタクシーが町全体の公共交通空白地域をカバーするのに対し､地域主体での移動サービスは、ある程度まとまった移動需要の点と点での移動を地域主体で行う形で考えている。研修会などで情報収集しながら、まずは導入の可能性について検討をさせていただきたいと思っている。 　次に、バス路線の維持・充実については、小川町では現在３事業者５路線のバスがある。みどりが丘循環・パークヒル路線の性質は駅と団地を結ぶ日常利用での路線、東秩父・ときがわ路線はそれぞれの自治体が主体となって運行している路線となっている。また、熊谷路線は当町と熊谷市・嵐山町を広域的に結ぶ路線である。このように路線ごとの状況が異なるため、それぞれの性質等も踏まえて事業者さんと連携して弾力的な運用をしていく上で、このような書き込みをさせていただいている。 　また、計画の目標については、人口減少や新型コロナウイルスの拡大に伴い、全国的なバス路線利用者の減少は深刻なものになっている。そのような状況でも、路線の維持に努めていきたいというプラスの想いを含めて「現状維持」という目標を掲げさせていただいている。事業者様からのお声でも、なかなか元の利用者数に戻っていくのは難しいと伺っているが、町としてできる取組に関しては実施していきたいという考えである。
尾崎会長	それでは計画（素案）について承認される方の挙手を願いたい。 　⇒全委員挙手・了承 －以上－